

令和 7 年度 男女共同参画基本計画事業評価部会 報告

第 1 回事業評価部会

日 時：令和 7 年 7 月 15 日（火） 午後 3 時～4 時 30 分

会 場：市庁舎 5 階 委員会室

〔内容〕

第 2 回事業評価部会における対話先について、次長職で構成される「習志野市男女共同参画施策庁内推進会議」、または、テーマを絞り該当する事業担当課とする 2 案について、事務局から提案を受け協議いたしました。

結果、第 3 次男女共同参画基本計画の振り返り及び今後のビジョンの各部の考え方を伺い意見交換を行うこととし、今年度も昨年度と同様に次長職で構成される「習志野市男女共同参画施策庁内推進会議」との対話といたしました。

対話の焦点といたしましては、習志野市が千葉県の流れ山市と印西市に並び、第 3 の持続可能自治体となるよう、出来たこと、出来なかったことを振り返り、併せて次に向けてどこに力を入れていくか、8 年後の男女共同参画及び多様性のあり方について意見交換し、次期計画でどう改善していくのか、あるいは指標自体が妥当であるか等を検討することといたしました。

第 2 回事業評価部会

日 時：令和 7 年 8 月 8 日（金） 午後 2 時～3 時 30 分

会 場：市庁舎 5 階 小委員会室

〔内容〕

(1) 習志野市第 3 次男女共同参画基本計画の評価に係る対話の実施

第 3 次男女共同参画基本計画の「令和 6 年度事業評価シート」、「令和 2 年～6 年度の管理指標一覧」、「令和 6 年度事業の取り組み状況」及び第 4 次男女共同参画基本計画の概要版と素案に基づき、対話（意見交換）を行いました。

第 3 次の計画の振り返りでは、各部の施策の実績、支援体制の強化、啓発等における課題等の報告をもとに、意見交換を行いました。

また、今後のビジョンについて、男女共同参画基本計画に係る事業や施策を中心に報告があり、引き続き男女共同参画及び多様性の視点を持って事業に取り組んでいただくことを確認いたしました。

<参考>

【男女共同参画基本計画事業評価部会における次期計画に向けた意見】

- 各部事業評価における基本目標に対する貢献度について、S と A の評価のつけ方を伺いたい。S を目指してもらうため、S と A の評価の差を明確に設定する必要がある。S をベストプラクティスとする、または、良い事例を情報共有する等、事務局でやり方を検討していただきたい。

また、各部から令和 2 年度から 6 年度までの事業の実績として、新たな制度や仕組

み等も含めた全体の振り返りをしていただいたことから、今後は、部単位での評価の実施を検討していただきたい。

（事務局）

評価について、目標値を達成・超過した場合 S 評価をつけると推測されるが、目標を達成している場合も A 評価としている事業担当課もあると考えられる。評価は事業担当課に任せているが、今後、評価の基準について精査が必要と考える。また、部単位の評価については、今後、研究していく。

- 啓発活動の成果について、庁内推進会議委員から数値化が難しいという意見があったが、啓発の効果は確認したいところであり、各担当課のモチベーションに繋がる場所である。数値化の方法について、事務局で考えられないか。

（事務局）

講座については、アンケートを実施しているが、多様性の視点について項目を追加する等、検討していく。講座以外については、計画の策定時に行う意識調査で意識の度合いを測るものではないかと考える。

- 啓発活動の成果を数値化することについて、管理指標において、実施回数を設定する代わりに参加人数や参加してほしい年齢層、性別、関係等を設定する、または、アンケート回答結果において、特定の項目について、ある項目での回答者割合等を管理指標の目標とする等、各事業の目的が分かるよう、管理指標の工夫が必要である。

（事務局）

検討していく。

- 男女が参加できる地域開放の充実（事業番号 80）の管理指標項目を保育所所定開放日数とし、目標値を週 2 回以上としているが、安全面について考慮して実施していただきたい。

（事務局）

週 2 回以上の保育所所定開放については、こども保育課としては実施していただきたいことであり、各保育所・幼稚園に依頼しているところである。

また、安全面については、保育所所定開放日に職員が在籍することとしており、保護者等から安全面についてのご意見はいただいていないとのことだった。

【習志野市第3次男女共同参画基本計画の令和6年度の事業評価】

- 令和6年度の事業評価としては、概ね達成できていると評価いたします。

【各部の今後のビジョンを伺ったうえで次期計画に向けた要望】

- 令和6年4月24日に人口戦略会議から発表された『令和6年・地方自治体「持続可能性」分析レポート』によると、千葉県内で「持続可能」と分析された自立持続可能性自治体は、流山市と印西市のみである。今後習志野市が魅力あるまちとして、市民・国民に選ばれる第3の自立持続可能性自治体となるためには、市全体で基本構想の目標である「多彩で豊かな交流が広がるまち 習志野」に向かって、各部の事業、計画に着実に取り組んでいく必要があり、本計画においてもその視点を重視すべきである。次期計画は長期間の計画となるため、令和15年を見据えた目標を設定し、その目標に向かって、現計画を見直し策定していただきたい。
- アンケート調査は行政に意見を出す機会であるため、地域や市民団体等の協力を得て、より多くの市民に回答してもらう方法を検討していただきたい。
- 各部署でそれぞれ事業に対し、真摯に取り組んでいると思いますが、横に繋げていただきたい。

習志野市男女共同参画基本計画事業評価部会委員名簿

敬称略、50音順（令和7年7月8日現在）

氏 名		所属等
1	秋山 奈穂子	習志野商工会議所
2	朝倉 暁生	東邦大学
3	◎後藤 京子	千葉人権擁護委員協議会習志野支部会
4	佐藤 佐知子	公募委員
5	杉山 雅崇	習志野市建設協力会
6	高田 雄佑	習志野法曹会

◎部会長